



農学部図書室



図書室は、農学部本館建物のほぼ中央、六角形の大講義室を改装したもので、学部の中央という位置の点をのぞいては、近代的な図書室としての機能を生かすに

は、あまりにも行きづまりだらけの条件のなかにおかれています。現在の2階閲覧室、1階事務室も、利用面と機能とをかんがえ、幾度かいかわっています。

自然科学系の学部中央図書室としては、京大のなかではまず最古のもので、雑誌類の整理に重点をおき、常にみやすいよう、使いやすいよう、その配列、整理、納庫には全員一丸となって努力しております。

定員10名たらずの少人数ではありますが、42年度よりは、法、経、文に遅れじと、自館登録にふみきるかたわら、閲覧面には、ベテラン職員を大量に配し、整備の不十分をカバーしながら懸命に努力してきています。一方、図書委員会の努力は、学部長、事務長をうごかし、予算もおおはばにふえ、附属図書館の助言もくわわり、旧態をしるひとからは、その変貌が驚嘆されていますが、その反面、学生達からは、「これが京大農学部の中央図書室か？」と、指摘され、まだまだ改善の余地がのこされています。

設備と図書は金で解決できるが、有能な図書館職員の経験と、寄贈される雑誌、資料の収集は、農学部図書室の命綱であります。

金もいらない、名もいらぬ、農学部図書室に骨をうずめてくれる若い図書館員の努力が、今日の農学部図書室を基礎として、明日の発展を約束しています。見てくれ。使ってくれ。農学部図書室を。

農学部図書室の書庫には、まだ一度もよまれたことのない資料が、相当あります。いま、若い図書館員が、はだかで、ほこりにまみれて、懸命に整理しています。是非、あなたの手で、これらの資料に、日の目をみせてやって下さい。

(農・図・島田)

あ と が き

◇ 夏やすみも終り、本格的に研究、勉強される9月をむかえた。本館大閲覧室の冷房装置も夏中大きな故障もなく、おかげさまで連日満員の盛況が続けてきたが、朝夕は秋の気配が漂いはじめて、そのお役目を終る日も近づいた。川口先生の巻頭にもあるように、この方面の施設がおくれている現在、それなりの役割りを果たしてくれたということである。

◇ しかし、本館の学生用図書費が、全学図書購入費に対し非常に僅少にすぎないという事実をはじめ、多くのたちおくれと、サービスの不十分さはおおうべくもない。次号は読書週間の11月でもあるので本学の読書施設などについて意見、不満があれば、文章にして何卒最寄りの図書室へお渡し願いたい。

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 4, No. 3 (通巻18号) 1967年9月15日発行・編集発行人：岩猿敏生 発行所：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表77-8111 (内線) 2220-2238